

自分ごと化会議

私に関係ある？ あり！

太田市自分ごと化会議 2019

第3回会議 議事概要

第1分科会

分科会	第1分科会
日 時	令和元年11月10日（日）14：30～16：00
会 場	市役所本庁舎 3階 大会議室
コーディネーター	田中俊
ナビゲーター	株式会社アンドアイ 代表取締役 室田明里

コ）コーディネーター、委）委員、市）市職員、ナ）ナビゲーター

議事概要
■前回のおさらいについて コ） 前回から時間が経ってしまったので、委員同士で2人1組になり前回までの議論を振り返ってほしい。また、前回の会議で、次の会議の時までに実際に広報紙を読んでほしいと宿題を出したが、実際に読んでみて感じたことなどがあれば併せて意見を聞きたい。 （委員による前回までの振り返りと広報紙を読んだ感想） ・ 現状、積極的に行政情報を取りに行っていないが、日常生活に支障がない。（行政情報がなくても困らない） ・ 必要な情報、自分の関心のある情報は進んで取りに行く。 ・ 行政は情報を出したので市民は知っているはずと思っているが、実際には市民は知らないというギャップがある。広報紙を見ていない人が多いため、情報の発信の仕方を検討する余地があるのではないか。 ・ あらためて広報紙を見直したら、グルメシールラリーなど自分の興味ある情報も載っていて、もっと早く見ておけばよかったと思った。 ・ 防災について、情報が見つからず、今回の台風でどうすればよいかわからなかった。同じ情報でも重要な情報は複数回載せてもよいと思った。 ・ ハザードマップなど防災の情報は発信されていた。それにもかかわらず、今回の災害時には何を持って避難すればよいか、準備ができていなかった。関心を持っていないとスルーしてしまうし、読んでも忘れてしまう。情報があっても上手く活用できていない。

■情報の種類について

- コ) 委員の振返りの意見を聞いてナビゲーターの見解はどうだろうか。
- ナ) 皆さんの意見を聞いていると情報の種類を2つに整理できると思う。

(情報の種類)

- ・ 興味はなくても多くの市民が知っておいた方がいい情報 (must な情報)
- ・ 興味があり個人的に知りたい情報 (want な情報)

- コ) 行政が出している情報はみんなに知っておいてほしいということが多いから、そもそも must 寄りの情報が多くなるのかもしれない。must な情報はどうしたら市民に届くだろうか。
- ナ) 広告業界では、広告を見る人がいかに広告の内容と自分のこととを結び付けるかが重要。具体的に“あなた向けの情報です”ということを強調しないと伝わらない。あるいは、面白い情報で目を引くこともある。
- 情報は届いてはいるが、伝わってはいないかもしれない。自分ごととなっていないという課題があるのではないか。

■情報の伝え方について

- 委) 広報紙に救命講習の記事が出ているが、ここにいる委員の中で実際にどの程度救命講習を受けているだろうか。
- (※ほぼ全ての委員が講習受講経験あり)
- コ) 自動車教習所や、地域の自治会や職場などで受けたことがある人がほとんどのようだ。そうすると広報紙で全市民に周知する他にも、講習の実施者などに個別に案内するなどの手も考えられる。
- 委) 広報紙が月に3回発行され発行頻度が多いが、情報量が多く、漫然と出されると市民も混乱する。福祉系の情報は1日号、防災系の情報は10日号などのように分野によって整理して発行すると見やすくなるのではないか。
- 市) 発行日によって分野を特定するというアイデアは、課内でも話題に挙がることがあるが、タイムリーな情報提供ということで全ての分野がいつでも記事掲載できるようにしている。
- ナ) ちなみに、私の住んでいる自治体では、広報紙の発行が月に1回である。太田市は発行頻度が多く、発行する側の苦労も多いのだろうと思う。
- 委) 太田市民であるというアイデンティティがないから読まないのではないだろうか。

- コ) 委員の振り返りの中で、台風被害の話にあったが、災害に関して事前に行政が発信している情報としてはハザードマップがある。ハザードマップを見ると、逃げなければいけない地域や必要なものがあるようになっていて、実際の活用状況はどうだったろうか。
- 委) ハザードマップなど防災の情報は以前から発信されていた。私も地区の自主防災会の関係で意識してみていた方であると思う。それにもかかわらず、今回の災害時には何を持って避難すればよいか、準備ができなかった。
- 委) 関心を持っていないとスルーしてしまうし、読んでも忘れてしまう。情報があっても上手く活用できていない。
- 委) 今回の災害時には市のホームページのアクセスが多く、ダウンしてしまったと聞いた。そういった場合もあるので、やはり紙の情報も重要であると思った。
- 委) 市外から引っ越した時に、ごみの分別について知らなかった。クリーン作戦に参加したが、その時に区長さんに教えてもらえる機会があるとよかったと思った。
- ナ) ごみの分別方法はよく広報紙等で周知されているが、行政が情報を伝えるときに広報紙に頼りすぎるのはよくない。たとえば、広報紙に分別方法を書くのではなく、ごみ袋に直接載せるということも考えられる。
海外のたばこは害があるという写真などが箱についている。ゴミ袋にも載せてみる等の手段はたくさんある。
- コ) 広報紙という 1 つの手段だけではなかなか伝わりきらない。手段としては、広報紙のみではない。情報の伝え方については柔軟な発想で、方法を組み合わせるなど工夫をする必要がありそうだ。

■全体会における分科会長代理の報告

- ・ 情報の種類を「多くの市民が知っておいた方がいい情報：must な情報」と「個人的に知りたい情報：want な情報」の 2 つに分けて議論した。
- ・ AED の使い方など救命講習に関する情報が広報紙に載っていたが、自治会や会社で講習している事が多く、多くの人がそういった講習を受講していた。情報の種類によっては、市民全体にまんべんなく伝えるというよりも、講習の実施者など特定の人向けに伝えた方が効率のよいものがあるかもしれない。
- ・ 今回の台風被害を踏まえて、災害について話題に挙がった。ハザードマップなど情報は市民に届けられているが、受け取る側が自分ごととしていないと伝わらない。情報を出す側も“あなた向けの情報ですよ”ということを工夫して伝える必要がある。あるいは、キャッチーな掴みを載せてみるなどまずはどれだけ多くの人に記事を見てもらうかがポイントになる。

- ・ ごみの減量について話題に挙がったが、分別方法を広報紙に載せるよりもごみ袋に直接書いてしまった方が分かりやすく伝わりやすい。情報の伝えるために一つの方法にこだわらず、もっと柔軟に色々な組み合わせで工夫できる余地はあるのではないか。

第2分科会

分科会	第2分科会
日 時	令和元年 11 月 10 日（日）14：20～16：00
会 場	市役所本庁舎 11A 会議室
コーディネーター	高澤良英
ナビゲーター	（一社）構想日本理事 中田 華寿子

コ）コーディネーター、委）委員、ナ）ナビゲーター、市）市職員

議事概要	
■前回のおさらいと中間とりまとめについての説明 コ） 前回の会議からかなり時間が経った。私自身の話になるが、この間に、千葉県市原市は台風 15 号、19 号の影響を受けた。 今回の会議テーマは「行政情報のあり方」であるが、災害時は特に情報が重要であると改めて感じた。市原市では避難情報を常に発信していたものの、避難が遅れて 2 名の方が亡くなってしまった。「伝える」でなく「伝わり行動できるようにする」が非常に重要だと痛感した。 コ） 「情報を出しているけど伝わっていない」といった事例は様々なところにあり、まさにこれが今回の会議テーマの出発点だったと思う。「どうしたら伝わるのか」を考えていく上で、これまでは、広報紙や SNS の媒体のことではなくて、まずは皆さんの身近なところで困っていることを出してもらいながら、情報の観点を交えて議論をしてきた。今回は、これまでの具体例で出た議論を踏まえ、解決策について話し合っていきたい。 ■ナビゲーターへの質疑について （情報の掲示方法と頻度について） 委） 全体会でのナビゲーターの話の中で、「情報伝達の手法」について話があったと思う。私もそれが大切だと感じている。市民はそれぞれ生活パターンが違うし、世代も違う。行く場所も違う。一方で、みんなが共通して行く場所は、スーパーやゴミステーションだと思う。そこに必要な情報を掲示することが大切ではないか。情報は少しでも多くの人の目に付くところにあるということが大切だと思う。 ナ） 情報は頻度が大切と言われている。「あそこで見た、ここでも見た」が大切。1 回伝えるだけでは人は動かない。例えば、スーパーで張り紙を見た。ガソリンスタンドで張り紙を見た。それから、太田の広報紙で見て、「あ、これは重要なんだ」と気付く。3、4 回見ると響くと言われている。但し、お金かけてしまうと税金	

を使うことになるので、お金をかけないアイデア出しが重要だと思う。

■広報紙について

- コ) 太田市広報紙はどんな配布方法であったか再度確認したい。
- 市) 新聞折込みが中心だが、行政センターなどの公共施設や地元スーパー、コンビニでも無料配布している。
- コ) どの場所で一番捌けているか分かったら面白いかもしれない。
- 委) 図書館に置いてある広報紙はすぐに無くなってしまう。
- コ) もしかしたら一方通行感が否めないという印象になってしまうかもしれない。これまで行政としては「広報紙を様々なところに置くこと」を重視していたように思えるが、「本当に広報紙が伝わっているか、手に取られているか」について調査することは一案かもしれない。
- コ) ちなみに、この中で新聞をとられている方は手を挙げて欲しい。(挙手の結果)新聞を購読している人は7人、そうでない人は6人であった。比較的若い方が新聞購読されていないようだ。新聞を取っていない人は広報紙を読むだろうか。
- 委) 実家は新聞を取っているので、帰った際に広報紙を読んでいる。
- 委) 私は、高校生なので実家暮らしであるが、実家も新聞はとっていない。実は、広報紙のこともあまり知らない。周りの友達とも広報紙のことで話題になるようなことはない。
- コ) 広報紙を見ている人に聞きたいが、紙面の中でどういうところを見るか。
- 委) 広報紙の中に無料のヨガ教室が載っている。興味があるので見ている。
- 委) 新聞と一緒に机の上に置いてあるので、たまに読むこともあるが、その際は興味のあるところしか読んでいない。
- コ) 情報発信の手段については検討の余地があるように思うが、広報紙の新聞折込みについては、新聞を取っていない若い世代がポイントとなってきたそうである。また実際、行政情報が無くても生活に困っていないというところもポイントになりそうだ。

■地域コミュニティについて

- 委) 私は、地区の委員をやっているから広報紙はじっくり読む。480人いる区長や区長代理を使って情報発信することもできると考えるが、若い人たちは区長や区長代理を利用しにくいかもしれない。そこをどうするかもポイントの一つだと思う。地区内の組織が出来ているのに、利用する人は年配の方ばかり。若い人をどうするか。若い人との接点が少ないためなかなか取り込めないと区長も悩

んでいる。

委) 私自身は積極的に参加していない。親がまだ元気なので参加してくれている。

コ) 前回、子ども会に加入する人が少なくなっているとの話もあったように思う。

委) 確かに子ども会に参加する親はどんどん減ってきている。理由は、役員をやりたくないから。また、子ども会に魅力を感じていないのかもしれない。入ってもあまりメリットがないのにお金だけは取られると感じている方が多いと思う。

委) 子どものことは小学校が中心で、わざわざこども会に入る必要はないと考える人が多いように思う。地域の子どもたちの関わりを大切にするためのこども会であるが、小学校があれば現状問題ないとの認識が強いのではないか。

コ) 行政センターからみた地域コミュニティはどうか。

市) 新しい住宅団地の人間関係は希薄になりやすいと感じている。

コ) そういった地域のコミュニティの情報は発信されているか。行政が発信することはなかなか難しいと思うが。

市) 地区の場合だと回覧板にて情報発信している。行政情報を含めて回覧してもらうこともある。

委) 回覧板は回っているが、読むかどうかは何とも言えない状況だと思う。

コ) 回覧板を読まなくても生活する上で困っていないから成立するということなのかもしれない。地域のコミュニティの情報が入って来なくても大丈夫だと思うか。

委) 市からの伝達事項は困った時だけあれば、あとは関係ないと思っている人が多いのではないだろうか。

コ) これまでの話を踏まえると今後一層地域コミュニティが希薄になってしまうように思う。このことについて皆さんはどう感じるか。

委) 仕方が無いと言えば仕方が無いと思うが、個人的には、楽しさが必要なのではと思う。楽しくないと行きたいと思わない。子ども会のイベントにしても運動会にしても、自分が楽しいと思えば行くのではないかと思う。

委) うちは母子家庭。これは現実的なことであるが、日曜日もし事をしないと食べていけない。休んでいる場合でない状況にある。地域に関わりたいとの思いもあるが、こればかりは切実な問題。この状況では役員を出来ないことも現実。子どもがいずれ大きくなって、自分に余裕が出来れば、孤独死もしたくないし、地域に関わっていきたいと思っている。

■楽しさについて

- コ) 楽しいことは最も大切だが、その前の現実問題として自分の生活があるという話であった。他に「楽しい」というキーワードで感じることはあるか。
- 委) イベントの情報について、関心があれば「行ってみようかな。」となる。楽しいことを広報に載せて入口にすることは良いことだと思う。楽しさを一つのきっかけにする。
- コ) 今日は太田市産業環境フェスティバルが開催されていると思うが、実はそこに昨年度の住民協議会でゴミの減量について議論したメンバーが自主的に参加している。産業環境フェスティバルに訪れるお客さんに対して、ゴミ減量について知ってもらおうとブースを出して活動している。これはまさに楽しんで活動している一例だと思う。他に、「楽しそうに地域活動している人」を知っているか。また、その人のことは変わり者だと思うか。
- 委) 知っている。変わり者とは思わない。
- コ) では、何故ほとんどの人がそうなれないのか。もちろん生活のかかっている人はそれ以前の話だと思うが、それ以外の人は何故楽しめないのだろうか。
- 委) 仕事でさんざん絞られたから、休みの日は休みたいと思うのではないか。地域活動までは難しいと思うのではないか。
- 委) 私はサラリーマンの時に防犯委員をやっていた。仕事の都合で参加できないことも多かった。それでも誘われた。それほどにやってくれる人が居ないのかと感じた。担い手は毎年高齢化を重ね、車の運転すらままならないケースもあった。だから継続して誘われた。結果 15 年くらい役員をやった。実際、働いているとなかなか地域に目がいけないのは仕方がないと思う。
- コ) 実際に仕事をしながら地域の役員を務められた感想はどうか。また、その当時一緒に役員を務めていた方はどうであったか。楽しそうに取り組まれていたか。
- 委) 仕事で参加できない際ははっきり行けないと伝えていた。参加した日の最後はご飯も食べさせてもらえるし、楽しかったと思う。
- 他の人は、責任感でやっていたように思う。少し振り返ると、確か毎年一回、地区対抗のソフトボール大会をやっていたと思う。年配者の参加が多かったことから、若い人が居るチームが大抵優勝した。当時若いときは重宝されたものだ。
- ナ) 「楽しさ」というキーワードがあったと思うが、例えば一般企業が、何かを伝えて人を動かしたいとしたときは、事実の 3 倍くらい盛って伝える工夫をする。たとえ普通の活動であっても、ワクワクするような瞬間はあると思っている。ここをうまく伝える工夫をしてみる。例年のとおりこういった活動をしましたという報告だけでなく、今年は実は〇〇さんが来てくれてこんな盛り上がりを見せましたというような見せ方をして関心を持ってもらうような工夫をしてみることが大切かもしれない。若い人に関心を持ってもらうための切り口はどんな

ものだろうか考えることが大切かもしれない。同じニュースでも見せ方を変えることで印象は大きく変わる。若い人も一緒に議論してみることも大切かもしれない。若い人に「美味しいランチを食べさせてあげるから来てよ」と誘うことも一案。

■知りたい情報について

- コ) 皆さんはどんな行政情報が知りたいか。
- 委) 私は広報紙を概ね全部読んでいるが、興味がある情報としては、文化協会に入っているからその関連情報を良く読んでいる。自分が関連するものである。広報紙は市主催の行事であれば載せてくれるが、任意の団体の情報はなかなか出してくれない。
- 市) 行政センターではヨガなどの市民教室を企画・開催しているが、これまでは個々にタイトルを出していたものが、スペースの関係上、一覧になった。リニューアルした直後はどこに何が載っているのかわからず戸惑った。実はリニューアルしてから現在まで、教室の応募状況が下がっている。実際に市民の方から「どこに情報載ってたの？」と聞かれたこともあった。これらの対策として行政センターだよりを通じて PR しているものの、元に戻っていない状況。どうやって発信していけばよいか行政センターでも考えているところである。
- ナ) 太田市から色々な情報を出していると思うので、何がどこに載っているかという情報マップを作って市民の方に配ることは一案かもしれない。こういう情報はどういう頻度で、どこに出していくかを考えることが大切。
情報種別により整理することが重要かもしれない。紙一枚の絵でマップを見られると便利かもしれない。
- 委) 直近で必要だと思った情報は、先日の台風 19 号の時の情報である。私は旧尾島町の石田川近くに住んでおり、台風の際は旧尾島町役場へ非難をした。その後、旧尾島町役場自体も危ないとされ、総合グラウンドへ移ることとなった。移る際は準備のため一旦家に戻った。再度出発しようとしたところ、途中で冠水している道路があると聞いたのでどうにも動けず、結局自宅の 2 階に避難した。非難する道が分からなかった。ハザードマップで言うと、尾島地区全域が浸水想定区域に指定されているため、なかなか非難が難しいと感じた。このような台風を受けた後の結果の情報が欲しいと思った。この道が冠水しましたというような情報が欲しいと思った。避難所が途中で変わった情報も避難所に居ないと分からなかった。あの日は避難所に来ていないご高齢の方から「避難所が変わったの？」という電話を多数もらった。

- コ) ハザードマップは各地区の方に配布されているのか。
- 市) 今年の4月に全戸配布された。
- コ) 避難所は災害種別毎に分ける必要がある。例えば、地震の時は避難所として開設するが、洪水の時は開設出来ないなどの決まりがある。これを市が指定しても、結局みなさんが知らないと大きな被害が出てしまう恐れがある。これは行政だけの話ではなくて、こうして市民の方と共有化して全員が行動出来るまでにしなければならない。
- 委) 私は石田川の近くに住んでおり、先日の台風19号では避難勧告が出された。自宅の近くには避難場所が何箇所もあるが、2回目の台風19号の際、1回目の台風15号の時に行った避難所へ行ったが、既にいっぱいだから次へ行ってもいいと言われた。実際多くの方が、前回行った避難所に行ってしまうと思う。そういった情報が事前に欲しい。FM太郎を活用してほしい。少し前にあったおおたんラジオを全戸配布してもらえればありがたい。防災無線は良く聞こえない。今の住宅は家の遮音性が高い。
- コ) 避難の段階として「高齢者等避難開始」があるが、災害弱者は早めに避難して下さいという意向がある。避難先としてまず推奨されているのは親戚などの知り合いの安全な家や、2階以上の部屋などの垂直避難である。なお、避難所に行くとなれば早め早めをお勧めする。避難所は電源近くや壁際から埋まっていく。また、避難するときには持って行くものを事前にリスト化しておくといい。多くの方がスリッパや靴を入れるビニル袋などを持ってこない。行政は毛布1枚程度しか配布出来ないの、その対策として段ボールを持って行くことも必要。普段より行政からの情報を見て事前準備しておくことが大切である。
- 市) 防災マップに持ち物リストが載っているので確認してほしい。
- 委) 以前、市議の方の話をする機会があり、今後の太田市については、高齢化社会につき税収が減ってくるので、コスト削減のためにも、各地区における行政センターを集約化する必要があるとの意見を聞いた。仮に集約化されてしまった場合、今回のテーマである情報がしっかりと行き届くのか疑問になった。何のための行政センターであるのかと感じた。
- コ) 公共施設については太田市に限らず全国的に再編の動きがある。高度経済成長期に沢山の公共施設が建設され、さらには市町村合併により各地区に同様の施設が建設されてきた。これら全ての公共施設や道路も含めて維持管理するための費用を試算すると、莫大な金額が必要となってくる。これを踏まえ、これからの公共施設のあり方について話し合っていこうという流れが全国的に出ている。先程の行政センター統廃合の話については、断片的な情報のため不安になり、まさに第2感情が生まれてしまうところであったかもしれない。正確な情報

は重要であると感じた。

- 委) 広報紙の市長コラムに副市長や部長のコラムがあっても良いのではないかと一月に一回くらい。行政の顔が近くに見えるかもしれない。
- コ) 行政の顔が見えるというのは面白いかもしれない。今回の自分ごと化会議でもまさに顔が見えている状況だと思う。
- 委) 子ども関連の情報が欲しい。特に、スポーツや文化関連の情報があれば、それを参考にして子どもを参加させてみたい。子どもの適正が分からない中、色々と情報収集できれば可能性が広がるように思う。ちょっと目立つような結果や活動等があれば載せてほしい。「見学に行ってみようかな。」という最初のきっかけができそう。
- コ) そういった情報を広報紙で見つけることで、もしかすると他の情報が目に入ってくるかもしれない。広報紙はスペースが限られるのも事実だが、興味を惹くような情報をきっかけとして他の情報にも繋げるような工夫が大切かもしれない。
- 委) 健康関連の情報がほしい。ヨガ教室に興味がある。今は youtube を観て独学でやっている。また、健康に関する食事（レシピ）に興味がある。
- 委) スポーツ関連の情報がほしい。太田市では年に1回、スポーツ表彰をやっている。私自身、水泳で表彰されたことがある。市長賞は1万円もらえる。それがもっと周知されることによって、もしかすると「市長賞を取りたい」と頑張る人が出てくるのではないかと。なお、私が水泳で表彰された際、同時にエアロビックスの選手も表彰されていた。それまでエアロビックスを知らなかったが、太田市にこんなにも活躍している人が居ると初めて知った。このような情報を積極的に載せていくのも良い効果が生まれると思う。
- 委) どんな大会に太田市のどんなチームが出ていて、どんな結果であったか知る事が出来れば、自分も参加してみようとなるかもしれない。自分で情報を調べることも重要だと思う。

■全体会による分科会長の報告

(分科会長の報告)

- 第2分科会では、広報紙を新聞折り込みにて入手している人が半分であり、残りの半分はコンビニや公共施設、Webなどにより入手している状況であった。なお、コンビニや公共施設に置いてある広報紙がどのくらい捌けているか把握することで次

の段階に進めるのではとの意見があった。

- ・ 地域コミュニティについての情報は回覧板にて発信しているが、実際あまり読まれていない。特に若い世代に届いていないなど、実際に地域で起こっている現状について話し合った。ちなみに、地域コミュニティは「楽しさ」「ワクワク感」がないとなかなか人が集まらない。人間なので、押し付けられても役員をやらない。
- ・ 各委員がどんな情報を知りたいのか意見を出し合う中で、知りたい情報は人それぞれであったが、特に先日の台風災害の際に知りたかった情報の事例が挙げられた。どの委員も欲しい情報は明確であった。これらは市役所が発信するものとミスマッチしているように感じたので、次回はここを深堀していきたい。